

# 『源氏の庭』

源氏物語ゆかりの草花



◇あいさつ

◇「源氏の庭」の草花

- ◇ までしこ
- ◇ ききよう
- ◇ おみなえし
- ◇ やぶかんぞう
- ◇ ほおづき
- ◇ べにばな
- ◇ わらび
- ◇ われもこう
- ◇ ふじばかま
- ◇ すすき
- ◇ きく(野紺菊)
- ◇ しおん
- ◇ 源氏物語千年紀とは
- ◇ 源氏物語千年紀事業
- ◇ 源氏物語と草花
- ◇ 「源氏の庭」の御案内
- ◇ 「京てらす」の御案内

17 16 15 14 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

【本冊子の御利用にあたって】

「源氏物語」は、十一世紀初めに紫式部によって書かれた世界最古の長編小説といわれており、全編五十四帖から成り、最後の十帖は宇治が舞台であることから「宇治十帖」と呼ばれています。本冊子では、物語の中に登場し、府庁第二号館屋上緑化施設「京てらす」に設けた「源氏の庭」に植えられている十二種の草花を、花を付ける時期の順に、左記の形式で御紹介しています。

草花の名前

和歌等

源氏物語の中で、その草花の名が詠まれた本文と出典の「巻名」

大意 本文の大まかな意味

草花の写真

解説

物語の背景などを含めた本文の内容の解説

草花の学名や分類、原産地、花の学名や分類、原産地、花の学名や分類、原産地、花の学名や分類、原産地

※源氏物語に登場する植物を掲載していますが、生育環境の変化や品種改良などで、当時のものとは形状等が異なっているものもありますので、ご了承ください。なお、写真についても現代の園芸種を撮影しています。

あいさつ

源氏物語の存在が記録の上で確認されるときから、今年（2008年）でちょうど一千年を迎えます。この「源氏物語千年紀」を機に、より多くの人々が、当時の日本人の感覚や美意識にふれ、「もののははれ」という思想を感じ取り、心を問い直すきっかけになればと思います。

特に今年には、G8サミット外相会合をはじめ、世界の注目を集める一年でもありますので、自然との共生により文化を育んできた京都を世界にアピールしていきたいと思えます。

京都府庁でも、この度、二号館の屋上緑化施設「京てらす」に、源氏物語にゆかりの十二種の草花を集めた花壇『源氏の庭』を設置しました。京都御苑の鮮やかな緑を背景に、当時の自然環境に思いを馳せ、京都とともに今を生き続ける素晴らしい文化を是非お楽しみください。



京都府知事 山田 啓二



なでしこ (別名・とこなつ)

咲き交じる色はいづれと分かねどもなほ常夏にしくものぞなき

二帖「帝木」から

〔大意〕

色とりどりに咲き交う花は皆美しくて、これが一番、あれが二番と分けることができない。(君も、君と僕の間の娘もどちらも大切だ。)でもやはり花は「とこなつ」：ひとつつ床で愛し合った君がいちばんだ。



解説

光源氏の義兄にして悪友の頭中將が恋人に詠んだ歌。ナデシコは和歌では、「とこなつ」の名で呼ぶ時には「寢床」をかけて恋人を示し、「撫子」と呼ぶ時には「撫でる」をかけて幼子の意味で詠むことが多い。ちなみにこの恋人は後に光源氏と知りあう夕顔である。

一般名 ナデシコ(カワラナデシコ 河原撫子) 別名 大和撫子、常夏  
 学名 *Dianthus superbus* var. *longicalycinus*  
 原産地 ナデシコ科ナデシコ属 原産地 日本  
 特徴 5~10月 草丈が50~100cmで秋の七草の一つ

ききょう

これもいと心細き住まひのつれづれなれど、住みつきたる人々は、もの清げにをかしうしなして、垣穂に植ゑたる撫子もおもしろく、女郎花、桔梗など咲き始めたるに

五十三帖「手習」から

〔大意〕

庵は宇治に似た侘び住まいだが、住む人の手によりこぎつぱりと整えられており、庭の垣根に植えた撫子も見事で、女郎花、桔梗など秋の花が咲き初めていた。



解説

宇治十帖最後のヒロイン浮舟は横川の僧都一行に救われて、宇治を離れ比叡山麓・小野の僧庵に身を寄せる。本文は浮舟が見たその風景。山里の庭に秋の七草が映える。

一般名 キキョウ (桔梗) 別名 キチコウ、蟻の火吹き、朝貌  
 学名 *Platycodon grandiflorus* 分類 キキョウ科キキョウ属  
 原産地 日本、朝鮮半島、中国 花期 6~8月、9~10月  
 特徴 多湿を嫌い、乾燥を好む。日当たりの良い山野の草原に生育する。秋の七草の一つ。



# おみなえし

をみなへし

女郎花乱るる野辺に交じるとも露のあだ名を我にかけめや

五十二帖「蜻蛉」から

## 〔大意〕

女郎花の咲き乱れる野辺：女房方のあまた集うここに私が立ち入っても、どなたも私を好色などと言いはしないでしょう。私の真面目さを  
ご存じですからね。



## 解説

浮舟を失った後、薫と白宮はそれぞれに喪失感を抱く。本文は、内心で憂いつつも女房（侍女）と如才なく応対する薫の歌。なお女郎花は、和歌ではこのように女性をなぞらえて詠まれることがほとんどである。

# やぶかんぞう

にびいろ

薄鈍色の綾、中には萱草など澄みたる色を着て、いとさきやかに、様体をかしく、今めきたる容貌に、髪は五重の扇を広げたるやうにこちたき末つきなり。

五十三帖「手習」から

## 〔大意〕

薄鈍色の綾の表着を掛け、中には萱草色など地味な色のものを着て、たいそう小柄できれいな体つきをしているうえ、今風の顔立ちに、尼そぎに切りそろえた髪の裾が五重の扇を広げたように豊かだ。



## 解説

出家して尼になった浮舟の姿。ここでの「萱草」は衣服の色を言う。黒みを帯びた黄色で、喪服や尼衣に用いる。

一般名	ヤブカンゾウ (藪萱草)	別名	忘れ草、忘憂草
学名	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>kwanso</i>	分類	キスゲ科ワスレグサ属
原産地	中国	花期	7~8月
特徴	草丈80~100cm。日当たりの良い肥沃地を好む。		

一般名	オミナエシ (女郎花)	別名	姫部志、アワバナ、ボンバナ
学名	<i>Patrinia scabiosifolia</i>	分類	オミナエシ科オミナエシ属
原産地	日本、朝鮮半島、中国	花期	7~8月
特徴	草丈60~100cm。晩秋には地上部が枯れるが、春に株元から芽を伸ばす。悪臭がある。秋の七草の一つ。		



# ほおづき

ほおづき

酸漿などいふめるやうにふくらかにて、髪ひまひまの懸ひまひまかれる隙々、うつくしうおぼゆ。

二十八帖「野分のわき」から

〔大意〕

酸漿とかいうもののようにふくららとして、かかった髪の間から覗くお顔お顔がかわいらしい。



解説

夕顔夕顔の娘・玉鬢たまかみの笑顔笑顔の描写。肌肌の色や頬頬のあたりが実に美しかったといふ。なお、紫式部紫式部が仕えた中宮彰子中宮彰子も『栄華物語』で顔顔だちを酸漿酸漿にたとえられている。



一般名 ホオズキ (酸漿)  
学名 *Physalis alkekengi* var. *francheti*  
原産地 東アジア  
特徴 耐寒性がある。日当たりの良い少し湿った肥沃地を好む。

別名 鬼灯、灯笼草、輝血  
分類 ナス科ホオズキ属  
花期 6月、実は7~9月

# べにばな

なつかしき色ともなしに何すえつむはなにこの末摘花すえつむはなを袖すえつむはなに触れけむ

六帖「末摘花すえつむはな」から

〔大意〕

心惹こゝろかれる色という訳でもないのに、我ながらなんだってこの末摘花すえつむはな (紅花) : : 赤鼻あかびさんと関わり合ってしまったのかな。



解説

光源氏おうせが逢瀬おうせの後初めて見た末摘花すえつむはなの顔顔は、長くて先の赤らんでいる鼻鼻がたいそう特徴特徴的だった。歌は光源氏おうせが彼女彼女を思い出しながら一人一人ごとのように詠詠んだもの。



一般名 ベニバナ (紅花)  
学名 *Carthamus tinctorius*  
原産地 地中海~中央アジア  
特徴 草丈50~100cm。奈良時代に渡来。日当たりの良い場所を好む。

別名 末摘花、呉藍  
分類 キク科ベニバナ属  
花期 7~9月



# わらび

この春は誰にか見せむ亡き人のかたみに摘める峰の早蕨

四十八帖「早蕨」から

## 〔大意〕

今年の春は誰に見せればよいのでしょうか。お坊様が、亡きお父様を思い出すすがにと摘んで下さった、宇治山の峰の早蕨。去年はお姉さまと見たけれど、今年はそのお姉様も亡くなつて。



## 解説

宇治の八の宮と懇意だつた僧は、八の宮のために毎年春先に蕨わらびや土筆つくしなどを贈つていた。この年も変わらず贈られた蕨を見て、受け取つた次女・中の君は、今は亡き父と姉とを偲しのぶ。

# われもこう

老いを忘るる菊に、衰へゆく藤袴ふぢばかま、ものげなき吾亦紅われもかうなどは、いとすさまじき霜枯れのころほひまで思し捨てずなどわざとめきて、香に愛づる思ひをなむ、たてて好ましようおはしける。

四十二帖「白宮」から

## 〔大意〕

宮様の風流は、老いを忘れさせる菊はもちろん、しおれがちな藤袴や目立たない吾亦紅などを、おもしろくもない霜枯れの時期まで慈しむなど、ことさらに香りを堪能なさるものだった。



## 解説

宇治十帖の主人公・薫はかぐわしい体臭の持ち主だった。ここは、光源氏の孫・白宮におうのみやがそれに対抗して、殊更ことさらにかぐわしい花を育てる場面。

一般名 ワレモコウ (吾亦紅) 別名 団子花、お歯黒花など  
 学名 *Sanguisorba officinalis* 分類 バラ科ワレモコウ属  
 分布 ユーラシア大陸 花期 8~10月  
 特徴 草丈70~100cm。日当たりの良い丘陵や山地の草原などに生育する。乾燥に弱い。根のまわりが早い。

一般名 ワラビ (蕨) 別名 早蕨、蕨菜  
 学名 *Pteridium aquilinum* 分類 コバノイシカグマ科ワラビ属  
 原産地 日本などの温帯~熱帯地方 花期 7~10月、若芽は6月  
 特徴 草丈50~200cm。日当たりのよい草原や林内に生育する。



# ふじばかま

同じ野の露にやつるる藤袴あはれはかけよかごとばかりも

三十帖「藤袴」から

## 〔大意〕

あなたと同じ野辺の露で萎れている藤袴：同じ祖母の死を悲しむ私に、どうぞお気持ちをかけてください。ほんの申し訳程度でも結構ですから。



## 解説

光源氏の息子・夕霧が、藤袴の花にこよせて玉鬘に詠んだ歌。花の色・紫が縁を意味したことを利用し、従姉弟同士の親しいつきあいを願うもの。

# すすき

前栽どもなど、小さき木どもなりしも、いと繁き蔭となり、一叢薄も心にまかせて乱れたりける、繕はせたまふ。

三十三帖「藤裏葉」から

## 〔大意〕

植え込みなど背の低い木だったのも生い茂る大木となり、一塊りの薄も伸び放題に乱れていたのを、手入れなさる。



## 解説

光源氏の息子・夕霧は従姉で幼馴染の雲居雁と結婚し、独立して家を構えた。住まいは二人が幼い頃を共に過ごした思い出の三条殿で、しばらく主がいなかつたため荒れていた。

一般名	すすき (薄)	別名	芒、乎花、尾花、茅
学名	<i>Miscanthus sinensis</i>	分類	イネ科すすき属
原産地	日本、朝鮮半島、中国	花期	8~10月
特徴	秋の七草の一つ。山野、川原、荒地に群生する。日当たりの良い乾燥地を好む。		

一般名	フジバカマ (藤袴)	別名	蘭草、香水蘭
学名	<i>Eupatorium japonicum</i>	分類	キク科ヒヨドリバナ属
原産国	中国	花期	8~10月
特徴	奈良時代に中国より渡来。川べり、土手などに生育する。秋の七草の一つ。		



きく (野紺菊)

九月になりて、九日、綿覆ひたる菊を御覧じて、  
もろともにおき居し菊の朝露も一人袂たもとにかかる秋かな

四十二帖「幻」から

〔大意〕

九月になって、九日、重陽の節句のために綿を乗せてある菊をご覧になつて、

かつては二人で起居して、菊の花の上に綿を置き、長寿を祈つて花の白露を集めたね。でもその露も今は、私一人の袂にかかる露…涙の露となつてしまつたこの秋だ。



解説

光源氏は五一歳の時、三〇余年連れ添つた妻・紫の上を喪うしなひ、嘆き悲しむ。不老長寿の効を持つとされる菊を見るにつけても、亡妻との昔のひと時が頭をよぎる。

しおん

吹き来る追風は、しをにことごとに匂ふ空も、香の香りも、触ればひたまへる御けはひにや  
二十八帖「野分」から

〔大意〕

中宮がいらっしゃる方から吹いてくる風は、本来は香のない紫苑しおんがいっせいに匂い立っているようなかぐわしい香りだ。それも中宮がお触れになつたからだろうか。



解説

野分のわき(台風)の翌日、光源氏の息子・夕霧は、六条院に住まう女性たちを順に見舞う。本文は光源氏の養女・秋好あきのこ中宮の庭の様子。中宮は童女たちに秋の花を摘ませていた。

一般名	シオン (紫苑)	別名	鬼醜草、鬼の師子草
学名	<i>Aster tataricus</i>	分類	キク科シオン属
原産地	朝鮮半島、中国	花期	9~10月
特徴	草丈1~2m。水はけのよい土地を好む。乾燥を嫌う。半日陰でも育つ。		

一般名	ノコンギク (野紺菊)	別名	野菊
学名	<i>Aster ageratoides spp.ovatus</i>	分類	キク科シオン属
原産地	日本	花期	8~11月
特徴	草丈30~100cm。日当たりのよい肥沃地を好む。湿地にも乾燥する岩場にも生育する。		



## 『源氏物語千年紀』とは

紫式部日記の寛弘五年（一〇〇八年）十一月一日の条に、「藤原公任きんとうが『あなかしこ。このわたりに、わかむらさきやさぶらふ（このあたりに若紫さんはおひかえでしようか？）』と紫式部に尋ねたところ、『源氏ににるべき人も見えたまはぬに、（源氏に似ていそうなほどの方もいらっしやらないのに、（）』』と思いつながら聞いていた」と、「源氏物語」に関連する「若紫」や「源氏」という記述が見られ、当時すでに「源氏物語」が読まれていたことがうかがえることから、平成二十（二〇〇八）年を「源氏物語千年紀」ととらえています。

## 『源氏物語千年紀事業』

平成十八（二〇〇六）年十一月、裏千家前家元・千玄室氏や哲学者・梅原猛氏、作家・瀬戸内寂聴氏ら8人の文化人が、「源氏物語」が後世の文化に与えた影響の検証・再評価と千年紀事業の展開を国内外に「よびかけ」しました。

京都府では、「源氏物語」が宿す日本文化の美意識などをあらためて認識し、その奥深さや素晴らしさを広く発信するとともに、次世代に引き継ぐことをとおして、地域の活性化を図ってきたいとの思いから、京都市、宇治市、京都商工会議所など多くの関係団体と源氏物語千年紀委員会を設置して多彩な取組を進めています。

## 「源氏物語と草花」

（本冊子監修者）京都学園大学教授 山本淳子

『源氏物語』には、草花が効果的に使われています。

それは一つには、人物を指す呼び名としてです。たとえば「夕顔」。この花が光源氏と彼女の恋のきっかけとなったことからついた呼び名ですが、実際の花自体のはかなさが「夕顔」という女性の性格や人生そのものを象徴していると言えます。また、夕顔の娘の「玉鬘たまかづら」。光源氏に和歌の中で「玉鬘」と呼ばれることからこの呼び名となりましたが、一度は遠い九州まで行きながら再び上京し母にゆかりの人と巡り合う、数奇にして力強い運命が、どこまでも伸びる蔓草つるくさの名に表れています。

もちろん風景としても草花は効果的に描かれています。たとえば「賢木さかき」の巻、六条御息所と光源氏が今生の別れを覚悟する嵯峨野には、秋の花が萎れ草は枯れ、ただ荒涼とした風が渡っています。これらは皆和歌の世界で詠み継がれてきた景物なので、当時の読者たちはこの風景描写を読んだだけで、男女の悲しい別れという筋書きを察したことでしょう。ほかに、当時は衣裳の染め色の名や宮中の御殿の名などにも草花の名が使われることがありました。『源氏物語』ではそれらについても、色彩が持った意味や殿舎でんしゃの位置づけなどがみなストーリーに活かされています。

『源氏物語』に現れる草花は、このようにそれぞれが意味を持っています。それを知って読めば、『源氏物語』を読むことは間違いなく数倍楽しくなることでしょう。

### 【監修者略歴】

一九六〇年石川県金沢市生まれ。京都大学文学部卒業。石川県立図書館職員・石川県立高校教諭を経て、一九九九年、京都大学大学院人間・環境学研究所修了。京都大学博士（人間・環境学）。二〇〇三年、京都学園大学教員。二〇〇七年、『源氏物語の時代——一条天皇と后たちのものがたり』（朝日新聞社）により、サントリイ学芸賞（芸術・文学部門）受賞。二〇〇八年四月から京都学園大学人文学部教授





## 京都府庁第2号館屋上緑化施設「京てらす」について

地球温暖化対策のひとつとして、屋上緑化が都市のヒートアイランド現象の緩和や都市環境の改善に効果があることを広く府民の皆さんに知っていただくため、その先導的モデルとして府庁第2号館の屋上(約600㎡)を緑化し、平成18年5月から公開しています。

### <公開>

月曜日から金曜日まで(土曜日、日曜日、休日及び祝日は除く。)  
9時～17時(ただし、11月から2月までは、16時閉場)

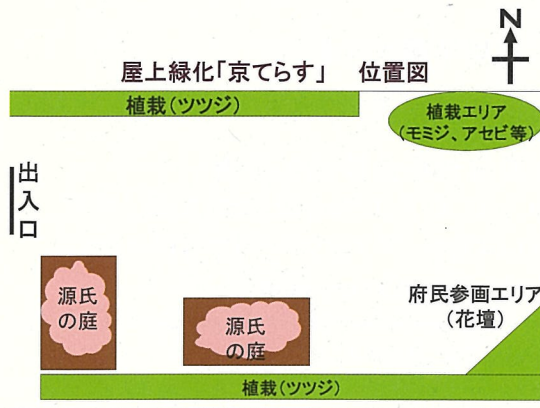
### <見学>

公開時間内に自由に見学ができます。(無料)

なお、説明を希望される場合は事前に京都府文化環境部自然環境保全課(電話 075-414-4706)までお申し込みください。

### <概要>

- ◇平成16年度に「緑の府庁づくりコンテスト」を実施し、府民の皆さまからの提案を取り入れて芝生広場等を整備
- ◇芝生広場(412㎡)、府民参画エリア(30㎡)、植栽試験エリア(30㎡)、花木等植栽エリア(約90㎡)、壁面緑化エリア(約15㎡)など
- ◇環境学習の場として、緑化面とコンクリート面との温度差を示す「温度パネル」や、屋上緑化技法などの「展示パネル」、雨水を花壇の散水に利用するための「雨水タンク」を設置



源氏物語千年紀事業よびかけ人代表の裏千家前家元・千玄室氏に、その銘を揮毫いただきました。

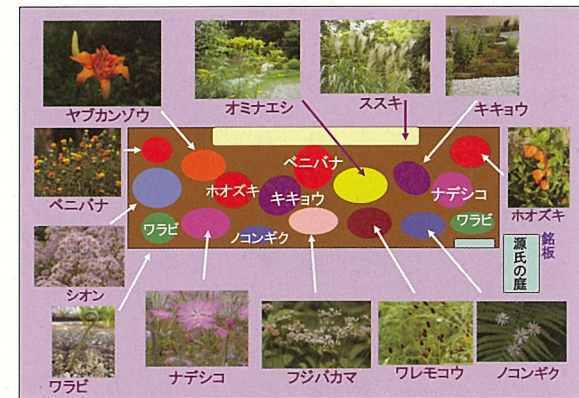
## 『源氏の庭』について

京都府庁第2号館屋上緑化施設「京てらす」では、屋上緑化に適した草花を調査するための植栽試験エリアを設けていましたが、平成19年度末で試験が終了したことを機に、京都府農業総合研究所の技術協力を得て、同エリアを源氏物語の中に登場する植物のうちから屋上緑化に適した草花12種で植え替え、「源氏の庭」と命名し公開いたしました。

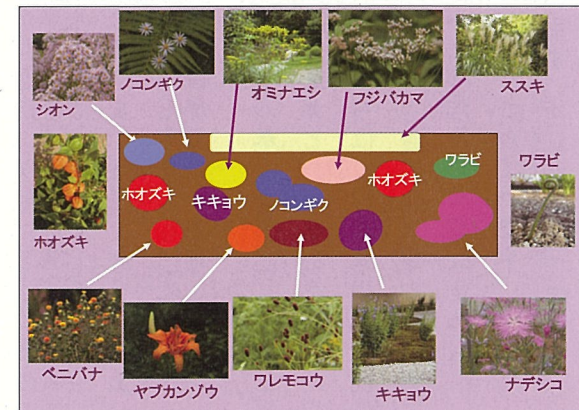
源氏物語に登場する植物は、草本類が約50種、木竹類が約60種の合計約110種とされており、その多くは十二単などの色合いの表現にも使われています。

「京都府立植物園でみる源氏物語の植物」(京都府立植物園発行)から引用

### 『源氏の庭』植栽レイアウト



「京てらす」南面中央



「京てらす」西面



府庁第2号館屋上緑化施設「京てらす」

## 源氏の庭～源氏物語ゆかりの草花～

### 京都府庁へのアクセス



京都駅から

市営地下鉄烏丸線「丸太町」下車

JR二条駅から

市営地下鉄東西線乗車、「烏丸御池」  
で烏丸線に乗換え、「丸太町」下車  
※ 地下鉄「丸太町」から徒歩10分

三条京阪から

市バス10系統

京阪丸太町から

市バス93、202、204系統  
※「府庁前」下車徒歩5分

見学にお越しの際は、公共交通機関を御利用下さい。

2008年6月発行

監修／山本淳子（京都学園大学教授）

協力／京都府農業総合研究所、京都府立植物園

企画／京都府文化環境部自然環境保全課

〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

電話番号：075-414-4706 ファックス：075-414-4705

メール：shizen-kankyo@pref.kyoto.lg.jp

この冊子の裏表紙には、(社)日本アロマ環境協会主催「源氏物語千年のかおり イメージフレグランス コンテスト」で環境大臣賞を受賞した『蓮の夢、千年の記憶』(作 坂原きょう子氏)の香りのシールを貼っています。

協力：小倉山香房

京都府広報印刷物No.2005032